

## メッセージ

ブリュノ・ドルプレール (ベルリンフィル第1首席チェリスト)

私たちのアンサンブルが誕生して以来、ベルリンフィルの12人のチェリストたちは、50年以上にわたって多くの国で演奏してきました。しかし、日本は常に私たちの心の中で、そして私たちのグループとオーケストラの歴史の中で特別な位置を占めてきました。12人のチェリストたちによる最初のコンサートが、アンサンブル結成直後に日本で開催されたことは、そのことを物語っています！

それ以来、日本とは半世紀以上にわたり、音楽的にも人間的にも私たちに影響を与え、豊かにしてくれた、とても実りある関係です。

最後に日本で演奏してから数年が経ちますが、2025年の夏に再び来日し、少し遅ればせながらも結成50周年を懐かしい観客の皆さんとお祝いできることを大変嬉しく、光栄に思っています。

また日本のファンの皆さんにお会いできることを楽しみにしています！

## ★出演予定メンバー

ブリュノ・ドルプレール (第1首席チェリスト) Bruno Delepelaire

ルートヴィヒ・クヴァント (第1首席チェリスト) Ludwig Quandt

マルティン・レーア (首席チェリスト) Martin Löhr

オラフ・マニングアー (首席チェリスト) Olaf Maninger

レイチェル・ヘルレル=シムコック Rachel Helleur-Simcock

クリストフ・イゲルブリンク Christoph Igelbrink

ゾレーヌ・ケーマレック Solène Kermarrec

シュテファン・コンツ Stephan Koncz

マルティン・メンキング Martin Menking

ニコラウス・レーミッシュ Nikolaus Römisch

ウラジーミル・シンケヴィッチ Uladzimir Sinkevich

クヌート・ウェーバー Knut Weber

※メンバーは変更になる場合もございます。

# 最高峰・ベルリンフィルのエッセンスを凝縮！ 待望のミュゼザ川崎初登場！



## Program

- 12人のチェロのための「讃歌」(クレンゲル) ●スラヴ舞曲 第1集 第8番 短調 (ドヴォルザーク) ●スウィング・オンド・ヴォルザーク〈ユーモレスク〉(シュテファン・コンツ)
- 月の光 (ドビュッシー) ●12人のチェロのための「この先 何かあるうとも」より 第2楽章(マイエリング)
- 「シンドラーのリスト」メインテーマ(ジョン・ウィリアムズ) ●二人でお茶を(ユーマンズ) ●虹の彼方に(ハロルド・アーレン) ●アメリカ〜「ウェスト・サイド・ストーリー」より(バーンスタイン)
- 天使の死、天使のミロンガ、天使の復活〜「天使の組曲」より(アストル・ピアソラ) ●こんぴらふねふね、荒城の月(三枝成彰 編曲) ●ぼら色の人生(ピエール・ルイギ/エディット・ピアフ)
- 水に流して(シャルル・デュモン/エディット・ピアフ) ●クラップ・ヨー・ハンズ(ガーシュウィン) ●キャラバン(ファン・ティゾール/デューク・エリントン)

## ベルリンフィル12人のチェリストたち

### Die 12 Cellisten der Berliner Philharmoniker

ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団のチェロ・セクション全員で構成されるアンサンブル。結成以来、半世紀を越えて国際舞台で例外なしの成功を重ねています。“12人”は1966年のベルリン・フィル日本公演期間中、チェロ・カルテットがNHKなどで演奏したのがきっかけとなり活動を開始、1972年オーストリア放送協会の依頼により、ザルツブルクでクレンゲルの《讃歌》を演奏した際、“ベルリンフィル12人のチェリストたち”を名乗り、正式に誕生しました。“12人の完全プログラム”による最初の公演はヨーロッパではなく、日本の早稲田大学大隈講堂で1973年10月26日に行なわれました。この年、彼らのために作曲された最初のオリジナル作品であるボリス・ブラッハーの《ブルース、エスパニョーラ、ルンバ・フィルハーモニカ》は、ここで初演され、世界へと羽ばたいていきました。

“12人”は音楽外交使節としても大きく貢献してきました。ワイツゼッカー-西ドイツ大統領(当時)の公式訪問に幾度か同行したほか、当時の東ドイツに招待された最初の西ベルリンの楽団でもあり、ドイツ統一や世界平和に寄与しています。ベルリンの壁崩壊直後の1990年、ワイツゼッカー大統領より天皇陛下への皇位継承のお祝いとして遣わされ御前演奏を行ない、1996年には神戸において阪神淡路大

震災チャリティ・コンサートを行うなど、日本とドイツとの親善大使として大きな役割を果たしています。

1992年、ファンハウスからリリースされた“12人”の演奏による三枝成彰編曲のCD〈悲しみのベートルズ〉、続く1994年リリースの《荒城の月》などが含まれた〈泣きたいだけ泣いてごらん…日本の歌〉は大ヒット作となっています。

2000年より新たなCDシリーズの録音がEMIによってスタートし、第1弾〈South American Getaway (邦題:ブラジル風パッサ)〉は、権威あるドイツの“エコー・クラシック”受賞作品となり、2002年 第2弾〈Round Midnight (邦題:ムーンライト・セレナーデ)〉が続けて大ヒットとなっています。2004年には映画音楽を集めた第3弾〈As Time Goes By... (邦題:時の過ぎるまま)〉がリリースされ、このアルバムはふたたび“エコー・クラシック”受賞の栄誉に輝きました。

第4弾〈Angel Dances (邦題:天使のミロンガ)〉は2007年グラミー賞(最優秀室内楽演奏部門)ノミネート5作品のうちの一つとなる名誉を得ています。

カラヤンからアバド、そしてラトルからベトレンコへ。ベルリン・フィルの時代の移り変わりとともに世代交代を経験しながらさらに磨きがかかり、創立50周年を越えて、さらに光り輝き続ける“ベルリンフィル12人のチェリストたち”の演奏に大いにご期待ください。